

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2023年5月31日時点)

➤ **ウクライナ軍が南部及び東部の露軍への抵抗を継続するとともに反転攻勢に向けた動きを活発化させる一方、露軍は東部における占領地拡大に向けた作戦や各地の非軍事施設に対する攻撃を継続している模様**

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: **死者約6万~7万人**(CSIS2月27日)

: **死傷者約18万人**(クリストファーセン・ノルウェー軍参謀総長1月22日)

「ウ」軍: **死者最大約1万3千人**(ポドリャク「ウ」大統領府長官顧問22年12月1日)

: **死傷者推定10万人以上**(クリストファーセン「ノ」軍参謀総長1月22日)

「ウ」市民: **死者8490人以上、負傷者1万4,244人以上**(OHCHR4月10日)



- 5月22日、米空軍長官は、「ウ」が**F-16戦闘機を運用する能力を獲得するまでに少なくとも数か月**かかる旨発言
- 5月23日、EU外交安全保障上級代表は、ポーランドなど複数の国で既に「ウ」人パイロットへの**F-16の訓練が開始**されたと発言
- 5月24日、**フィンランド**は、**防空兵器及び弾薬**を含む追加の軍事支援1億900万ドル規模の支援を発表
- 5月26日、**スペイン**国防相は、「**レオパルト2A4**」4両及び**M113装甲兵員輸送車**複数両がじき「ウ」に送られる旨発言
- 5月30日、**レズニコフ**「ウ」国防相は、「**レオパルト2**」戦車約**60両**(2個大隊分)が西側諸国から「ウ」に供給されたとメディアのインタビューで発言
- 5月31日、「ウ」通信社は、朝鮮日報のインタビューに応じたゼレンスキー大統領が、韓国に対し防空兵器供与の必要性を訴えた旨報道

- ショイグ国防相は、ベラルーシの首都ミンスクを訪問し、フレンシ国防相と会談するとともに、「ベラルーシ国内の貯蔵施設へのロシアの非戦略核兵器の保管要領に関する文書」に署名。ショイグ国防相は、**ロシアが非戦略核兵器をベラルーシ国内に配備**はするものの、**管理及び使用の決定にあたってはロシアが権限を保持**する旨発言(5月25日)

- 露国防省は、**モスクワに対する無人機攻撃**が生起したと発表、**8機飛来**したうち**3機を電子戦手段により、5機を「パンツィリ-S」防空ミサイルシステムにより迎撃**したと発表(5月30日)
- 露独立メディア「ヴァザ」は、**25機から32機の無人機が飛来**していたと報道(5月30日)
- 同攻撃に関し、「ウ」大統領府顧問は「我々には直接関係がない」と発言、プーチン大統領は、同攻撃をテロ活動だと指摘した上で、「**キーウ政権はロシアや国民を怯えさせることを試みる道を選んだ**」と発言(5月30日)

- 「ウ」空軍は、27日夜に**首都キーウ州など各所に向けイラン製無人機「シャヘド131/136」による過去大規模の攻撃**が行われ、54機飛来したうち52機を「ウ」軍が撃墜した旨発表(5月28日)
- 30日未明、再びキーウへの無人機攻撃があり、「ウ」空軍は、**31機飛来したうち29機を撃墜**したと発表(5月30日)

- ワグナーのプリゴジン氏は、ドネツク州の**バフムト**から部隊を撤退させ始め、ロシア軍正規部隊と交代しつつある旨発言(5月25日)
- マリヤル「ウ」国防次官は、**バフムトからワグナーが撤退し始め、ロシア軍部隊と交代**している旨指摘(5月25日)

- 主要都市(下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点(接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- ☀ 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- ☀ ウクライナ軍が奪還した地域